

## 変革と挑戦の歴史とそれを支える知財活動

梅 谷 博 之\*



### 1. はじめに

帝人グループは1918年の創業で、一昨年100周年を迎え、昨年新たな100年へ一歩を踏み出しました。当社は、今で言う大学発のベンチャー企業として日本で初めて確立されたレーヨン製造技術をもとに設立されたレーヨン製造会社・帝国人造絹糸株式会社としてスタートしました。戦後、主力をポリエステル繊維（テトロン）に移し、新素材への展開、医薬事業への参入、パイオニアとしての在宅医療の確立、IT事業への参入といった多角化を進め、海外展開を積極的に図ってきました。

帝人の歴史は絶えざる「変革」と「挑戦」の歴史であり、ベンチャースピリッツ、グローバリゼーションは今もDNAとして引き継がれています。

### 2. 帝人グループの目指す姿

帝人グループの企業理念はQuality of Lifeの向上であり、長期ビジョンは社員の多様性を活かし、社会が必要とする新たな価値を創造し続け、未来の社会を支える会社になることです。SDGsなどの社会課題に対し「環境価値」、「安心・安全・防災」、「少子高齢化・健康志向」という3つのフィールドで課題に立ち向かい、未来の社会を支えることを目指しています。

帝人グループはマテリアル、ヘルスケア、ITといった異なる3つの事業領域を持つユニークな事業体とそれを支える技術基盤を有しています。この強みをさらに強化し最大限活用して「変革」と「挑戦」を続けていくことで未来に向けてソリューションを提供していくことを目指しています。

マテリアル事業では、アラミド繊維や炭素繊維などの高機能繊維、ポリカーボネート樹脂を中心にグローバル展開しており、環境価値、安心・安全・防災を中心としたソリューションを提供しています。さらなる変革として軽量素材のモビリティへの提供による環境負荷低減を目指し、自動車向け複合材料ではTier1サプライヤーとなり、グローバルな展開を進めています。

ヘルスケア事業では骨関節・呼吸器・循環器代謝領域での医薬品、在宅医療機器双方を有することを強みとしてユニークな医療ソリューションを提供しています。さらなる変革として埋め込み型医療機器事業の展開、さらには介護保険や保険外のケアサービス、健康食品素材にまで展開を進めており、帝人ヘルスケアの独自性である在宅医療プラットフォームを活用して未病から医療、リハビリテーションや介護まで拡大すること、またITの最大活用により高齢化社会において重要となる地域ネットワー

\* 帝人株式会社 帝人グループ執行役員 法務・知財管掌 兼 マテリアル技術本部長 Hiroyuki UMETANI

ク型の医療支援、患者支援の力強いパートナーになることにより、少子高齢化・健康志向を中心としたソリューション提供を目指しています。

### 3. 帝人グループの知財活動

知財部門の歴史は、1925年に特許第一号を取得しており、1960年に技術部特許課から独立して開発本部特許部になった時が実質的な始まりで、本年60周年を迎えます。1990年に知的財産部と改称し、一時子会社化されましたが、その後再び帝人株式会社に統合され現在に至っています。

知財部門も多角化や海外展開といった事業の変遷に応じ、素材系から始まり医薬分野、サービスも関わる在宅医療分野への事業領域の拡大、さらには新素材、新技術、新事業確立に対応し知財活動の幅を広げてきました。

昨今では、知財を取り巻く環境としてIoT、AIを中心とした第四次産業革命にかかわるイノベーションがビジネスのエコシステム変革も含めた大きな潮流となっており、知財活動も大きく影響を受けています。AI、ビッグデータ解析による素材開発や創薬、ICTを活用したヘルスケアの新しいビジネスモデルなど、10年前には想像することが難しかったことが現実のものとなってきており、知財活動もこれらに対応することが求められています。また事業領域の拡大、そして昨今のレイヤー間の争いにもともなって、競合相手が従来の相手だけではなくりつつあることへの対応も必要となっています。昨今の環境変化がもたらす知財活動への影響はさらに大きな変化をもたらすと考えています。

こういった環境変化の中、当社の知財活動の重点施策としてまず一番目に掲げているのが知財戦略面の強化です。事業戦略、開発戦略と三位一体になった知財戦略を、上記しました環境変化を勘案し、これまで以上により一層強化していく必要があると考えています。そのための体制作り、システム構築にも注力しており、IPランドスケープはその一例で経営、事業判断を支援する質の高い知財情報を提供し、経営判断に必須な知財活動とすることを目指しています。

二番目の重点施策がグローバル化対応強化です。帝人グループの従業員数、売上高は海外比率が約50%となっています。ICT発達による外部環境変化もあり、これまで以上のグローバル対応が重要になっています。グローバル知財管理、知財戦略、さらには技術流出を含む知財リスクマネジメントの強化という面からも、グローバル知財マネジメントのさらなる強化を進めています。

三番目は、事業ポートフォリオ変革に対応した質の高い知財実務の提供です。「変革」と「挑戦」を続けていく中で常に必要となるのが、変革に対応したリソースの確保、体制の構築です。帝人グループは、製品にとどまらずサービス、システム、プラットフォームなどを含むソリューションを提供していくことを進めており、知財活動も従前にもまして専門性の多様化、深化が求められており、これに応じた体制を整えています。

### 4. おわりに

帝人グループでは今年が現中期計画2017～2019「ALWAYS EVOLVING」の最終年度で、2020年度からは新たな中期がはじまります。新中期計画を含め今後とも帝人グループは「変革」と「挑戦」を続けてまいります。私たち知財部門も環境変化および我が社の変革に伴い、知財として変革すべきところを見極めて変革し、社会を支える会社という長期ビジョンに向けて邁進し続けてまいります。